



大正15年9月広島豪雨災害

安芸市民病院 山中 啓司
(安芸地区医師会月報 2017.12 No.528より転載)

今年7月の九州北部豪雨は記憶に新しいと思いますが、平成26年の広島豪雨のことも忘れられません。最近では温暖化の影響かも知れませんが、ひとたび雨が降れば豪雨ということが多々みられるようになり、決して他人事ではありません。およそ90年前の大正15年9月にも広島豪雨災害がありました。私たちの病院がある畑賀地区では2度災害に合い、死者・行方不明者は69名にのぼりました。畑賀地区は呉袈々宇山周辺の複数の溪流が流れ込んできた畑賀川が中央を流れる谷間の斜面に存在し、その畑賀川は砂走で瀬野川に流れ込みます。最初の9月11日の豪雨では瀬野川水系畑賀川流域(畑賀村)と太田川水系山本川流域(山本村:現在の安佐南区)が特に大被害を受けました。この時の最大雨量は1日で390mm近くあり、深夜1時から2時の間に80mm近く降っており、記録を更新したようです。畑賀地域は各溪流で土石流が発生し、家屋・田畑・

道路・堤防・橋脚が流されました。地盤が緩んだこともあり、9月23日畑賀川が再び決壊し早朝に通過していた山陽本線特急列車の脱線という大事故を引き起こしました。『ファミリーヒストリー』というNHKの番組をみましたが、この事故は加山雄三という俳優誕生にも関係があるみたいです。

災害はまたいつやってくるかわかりません。概ね100年に1回起こると予想される1日240mm程度の降雨で想定したハザードマップを見ると畑賀地区に限らず、瀬野川近辺はいたるところに土石流危険溪流、急傾斜地崩壊危険箇所、予想浸水地域が見られます。

水害に限らず、地震、火災などいろいろな災害のことを考えながらいろいろな準備を行い、地域に貢献できる病院であり続けなければと思います。

e-広報室

広島医学も全文検索できます





e-広報室の登録はインターネットで

広島県医師会ホームページの「医師のみなさまへ」よりアクセスして「e-広報室」を登録してください。

お問い合わせ先: 広島県医師会 広報保険課
TEL (082) 568-1511
E-mail:kouhou@hiroshima.med.or.jp

広島県医師会

※症例などの検索が可能となりましたので、ご利用ください。